ninoyu satoshi
発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字:栢木寛照

えとす
平成27年8・9月合併号
No.279

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

# 平和安全法制が成立
# 世界・日本の平和・安定に寄与

## 国民の不安払拭・理解が必要

集団的自衛権の限定的行使が可能となる平和安全法制が、9月19日未明にようやく成立した。5月26日に衆議院の特別委員会に付託された平和安全法制の関連法案は、衆議院で116時間、参議院では100時間の審議が尽くされた。しかも、質疑時間は野党に大幅に割り振られて、野党に配慮した国会運営であった。それでも、法案に絶対反対の野党側には、採決に応じる気配は全く感じられず、17日に参議院の特別委員会で怒号と暴力が渦巻く中、法案を採決した。翌18日、参議院本会議で、防衛大臣、総理大臣問責決議案、議長不信任決議案、特別委員長の問責決議案等を処理した後、深夜になって法案が可決成立した。一部で戦争法案、徴兵制復活などと批判する政党もあるが、この法案の成立によって、抑止力が高まり、紛争や戦争を未然に防ぎ、我が国、そして世界の平和と安定に大いに寄与することになるであろう。

19日午前2時頃、参議院本会議場で安保法制の採決をする

国会議事堂周辺での反対デモ

## 恒心

★鬼怒川の堤防決壊によって、茨城県常総市の住民15名が、行方不明になったと発表されたが、その後一夜明けて、唐突に全員無事であることが発表された。実際には、常総市が県に15名の行方不明者を連絡した後、県はその人達が無事であることを順次確認していたが、そのことを、常総市に連絡しなかったようである。そのため、自衛隊、海上保安庁、警察、消防団が不眠不休で不明者の捜索をしていた。★何故、県は常総市に全員無事であることを連絡しなかったのか。常総市は、どうして15名の行方不明者の氏名を公表しなかったのか。もし、不明者の名前を公表していれば、無駄な捜索をしなくて良かった。★市が名前の公表をためらったのは、個人の権利利益を保護する個人情報保護法の存在である。個人の生死が関わっているのに、保護法はそれほど拘束力を持つのか。保護法23条は「生命、身体または財産の保護に必要な場合」は例外規定を設けている。本人の同意がなくても、氏名を公表出来ることとしている。★今回の場合、不明者の同意はとれない。それなのに、なぜ、市は非常事態の規定を使わなかったのか。家族はどうして自分の身内の名前を出すことを拒んだのか、不思議なことである。★保護法が成立した時、PTA、自治会などの名簿が作成出来なくなると心配された。いわゆる過剰反応である。県や市役所の役人が保護法にこだわりすぎて、大災害の時でも名前を公表するのをためらう様な事態となった。★地域社会でお年寄りを支える地域包括支援が重要であると言われている。しかし、自分たちの名前や電話番号を知らせたくない、どこに住んでいるのかも言いたくないでは、非常時にどうして援助を求めるのか。保護法の過剰反応を改める必要がある。

# 総務副大臣の公務の一コマ

平成27年度子ども霞ヶ関見学デー
「総務省子ども1日大臣会議」

7月29日　総務大臣室

平成27年度優良地方公営企業
総務大臣表彰

7月24日　ルポール麹町

全国市議会議長会理事会

7月23日　全国都市会館

総務省非常災害対策本部会議

9月1日　総務省

城陽市東部丘陵地視察

8月11日　城陽市

第151回全国都道府県議会
議長会定例総会

7月29日　都道府県会館

消防殉職者慰霊祭

9月10日　ニッショーホール

東日本被災地視察

9月8日　石巻市、南陸町内

平成27年防災功労者内閣総理大臣
表彰式及び記念パーティー

9月7日　首相官邸

## 自民党両院議員総会 安倍総裁を満場一致で承認

自民党総裁の任期満了に伴う総裁選挙が、9月8日に告示された。人気が高く、実力もある安倍晋三氏に対抗して誰が立候補するのか注目されたが、安倍氏以外手を挙げる人はいなかった。20人の推薦人を集められる人、そして出馬したい人に推薦人として名前を連ねる人がいないのが、現在の自民党の党内事情ではないだろうか。今後3年間、安倍総裁の指導の下で、自民党は政権を運営することになる。次期総裁が無投票で再選となったが、党所属衆参両院議員の三分の二以上が出席した党大会に代わる「両院議員総会」で、選挙の結果を報告し、総裁に決定する手続きが必要である。そのため、9月24日、自民党本部で、両院議員総会が開かれた。再選された安倍総裁は、「3年前、総裁に就任した時、わが党は野党でした。しかし政権は既に国民の信頼を失っていました。それは不可能な公約を掲げ政権を奪取した結果、政治、行政、経済、外交に大きな混乱を招いていたからです。だから、私達は政権奪還の選挙で国民に約束したことを実行するために全力を尽くし、経済においては、この2年9ヶ月でGDPは28兆円増えました。雇用も、給料もよくなっております。国民に約束したデフレ脱却に向け、強い経済を作りつつあります。また

社会保障の充実をしたいと考えています。さらに経済の好循環を全国津々浦々にお届けし、地方創生を進めて参ります。平和安全法制が成立致しました。この法制は国民の命を守り幸せで平和な暮らしを守るために不可欠なものです。この法制によって日米同盟は強化され、紛争や戦争を未然に防ぎ、抑止力は強靱なものとなります。PKO等において自衛隊の能力はより効率的に発揮されるようになります。成立には大変な困難を伴いました。しかしかつて日米安保条約改定時、またPKO法制定時、先輩たちがそうであったように、確固たる信念でやり遂げることが出来ました。私達はレッテル張りやデマには負けないで、今後とも決然として責任を果たしていかなければなりません。3年前日本は黄昏を迎えていると言われていました。今は新しい朝を迎えています。皆さん結果を出して誇りある日本を作っていこうではありませんか。」と力強く挨拶した。

両院議員総会で挨拶する安倍自民党総裁

## 自民党第2次公認候補者を決定 京都選挙区は二ノ湯参議院議員

来年夏の参議院選に向けて自民党は公認作業を進めている。8月3日に、比例12名、選挙区27名の第1次公認候補者を決定した。公認作業が遅れていた京都府連では、9月5日、議員総会を開催、現職の二ノ湯智参議院議員を公認候補者として、党本部に申請した。党本部は、連休明けの24日、比例5名、選挙区9名計14名の第2次公認候補者を決定した。京都選挙区の二ノ湯智議員も第2次公認候補者に入った。自民党京都府連の参議院候補者の決定が、他の県連より遅れたのは、党本部への申請手続きを非常に丁寧に行ったからである。自民党が野党の時、政権構想会議が設置された。この会議は、谷垣総裁が議長、伊吹文明代議士が中心となって運営され、参議院候補者の選定に関する基本方針が決定された。方針では、例え現職の議員と言えども、よりオープンで公正な選考を行うこと、そして党員が広く参加出来る方式で、選考を行うように努めることとなっている。つまり、出来る限り党員による信任投票を実施することが望ましいとされた。そのため、京都府連は基本に忠実な手続きをとった。幸いに、信任投票によって、二ノ湯議員は、投票された党員の約90％の信任を得て、府連において、公認候補予定者と決定した。

## 公認決定の御礼と私の決意

9月24日、党本部の選対で、来年夏に予定されている参議院選挙の京都選挙区の自民党公認候補者に決定をいただき、光栄に思うと同時に、責任の重さを感じております。京都選挙区では、既に民主党の現職、共産党が新人の擁立を決め、2人とも多くの事前ポスターを貼っています。大阪維新からも立候補する可能性が高く、京都選挙区は激戦となります。かって、2人区は、自民党の候補者にとって、比較的戦いやすい選挙区と言われていました。京都では共産党が躍進、民主党は知名度が高く、選挙上手な現職、政権与党の自民党といえども、決して楽な選挙ではありません。かって、橋本内閣での選挙で、当選確実と思われていた、自民党の新人候補が落選しました。前回の選挙では、民主党が共産党に敗れました。選挙は本当に恐いものです。今国会で、我が国の安全保障政策の大転換が行われ、国民の多くが、法案の中身が、良くわからず、不安な気持を持っていると思います。しかもアベノミクスと言われていますが、正直なところ、国民はその効果を実感していないのではないでしょうか。そんな情勢の中での選挙です。全国的に、自民党にとって、非常に厳しい戦いが予想されますが、京都は、格別に厳しい選挙になりそうです。そのためには、自民党として、総力を挙げて、戦いに臨まなければなりません。選挙は、候補者本人の頑張りはもとよりでありますが、京都府議会、京都市会、そして各級議員の一致結束した、暖かい協力なくしては、栄冠を勝ち取ることは、到底できません。多くの同志の皆様のお力を賜りたいと衷心より願っております。先ず、自ら先頭を切って、「京都の智恵を日本に活かそう」、「若い心と、豊かな経験」をモットーに、これから府下各地を訪問し、多くの人と、意見を交換し、自民党の政策、そして私の政治に取り組む姿勢に共感を頂くように努力してまいります。最後になりましたが、党員による信任投票に寄せられた私への厳しい批判の声に、謙虚に耳を傾け、反省をして、今後の政治活動の糧にしてまいります。改めて、皆様のご支援に感謝申し上げ、公認決定の御礼のご挨拶、決意とさせていただきます。

平成27年9月吉日

参議院議員 **二ノ湯　智**

26日国際会議場で開催された府連政経文化懇談会で挨拶する二ノ湯参議院議員

## 特別委員会での採決の顛末
## 見苦しい野党の対応

9月18日、参議院本会議において、平和安全法制が可決・成立した。厳しさを増す我が国の安全保障環境を踏まえて、非常に限定されたものとは言え集団的自衛権の一部行使を認めるなど、今回の法制は戦後の安全保障政策の大転換を意味する非常に重要なものだった。現実的脅威に対応するため、支持率を犠牲にしてでも責任を果たした安倍政権は評価に値する。ここでは、成立に至った経過を報告したい。9月16日、横浜での地方公聴会を終えた後、特別委員会で審議が行われる予定であった。ところが、強行採決を警戒した野党は、鴻池委員長を理事会室に〝軟禁〟し、夜中になっても委員会は開かれない。結局未明4時前になって、翌朝9時から委員会が開催されることが決まりひとまず解散となった。翌朝、昨晩のように委員長が委員会室に入れないことを危惧した与党は、委員会が始まる2時間前に鴻池委員長を委員会室に入れ、理事会開催も本来の理事会室ではなく委員会室で行うこととした。これに野党は猛反発し理事会は紛糾。またもや委員会は開かれない。その後、鴻池委員長の解任動議が出され、その動議を否決し、鴻池委員長が委員会室に戻ってきた時、例の騒動が始まったのである。100時間を超える審議を丁寧に行ってきたのだから、ある時点で採決するのは当然であるが、応じなかったのは野党である。国民の目には見苦しい採決シーンであったが、必ずや今後の安全保障政策の中で国民の皆様のご理解・ご支持を頂けるものと信じている。

与野党入り乱れての混乱した採決場面

## 身辺雑記

一、長男と次男の子供を丹後の海に連れて行き、水泳と魚釣りをした。最近は若い人に海は人気がないのか、人が少なかった。その分、ゆっくりと、海を楽しむことが出来た。地元の漁師の手助けで魚が随分釣れ、孫2人も大喜びであった。

一、安倍首相の戦後70年談話は、各方面で好評である。各分野の第一級の知識人による非常にレベルの高い内容となっている。首相の言葉でないと批判もあるが、首相も了解した現時点での日本の知性を代表する談話と理解すべきである。

一、大阪で中学1年の男女生徒が殺された。残忍な方法で殺人した犯人には一片の言い訳も許されないが、深夜に家を出て、遊び回る子供もどうかという感じだ。親は子供が家に居ないことが気にならないのであろうか。

一、莫大な公費を要する新国立競技場は国際公約もあって絶対見直さないと言っていたのが、総理の鶴の一声で白紙に戻った。今度はエンブレムもやり直し。これではオリンピックムードが一向に盛り上がらないのも、当然である。

一、天安門広場で実施された「抗日戦争勝利70年」式典は、中国軍の最新の兵器を誇示する軍事パレードとなった。中国は永遠に覇権を唱えずと主席が演説しても、日本が中国の脅威に備え、平和安全法制を整備するのも当然である。

一、9月に東日本の被災地の復興状況の視察に、石巻市、南三陸町を訪問した。南三陸町の防災センターでマイクを握って住民に避難を呼びかけた遠藤未希さんの声は未だに耳に残っている。センター前で彼女の冥福を祈った。

一、国勢調査が始まった。今回から、インターネットで回答する方式も採用された。総務省では約1割の国民が、ネットで回答することを希望している。私も担当副大臣として、秘書に手助けして貰いネットで回答した。

### 「日本真生塾」　例会のお知らせ

**第61回**　10月28日(水) 18時30分～21時
**第62回**　11月24日(火) 18時30分～21時
**第63回**　12月22日(火) 18時30分～21時

10月度例会では岡本塾長のインド視察による最新のインド情報をご講義いただきます。11月からは引き続き『北一輝』をゼミナール形式により検討してまいります。

講師：**岡本幸治 塾長**
場所：**龍谷大学アバンティ響都ホール**
(京都駅八条口前アバンティ9F)

＜お問い合わせは事務局へ＞(担当：奥井寛之)
日本真生塾事務局(二之湯事務所内) TEL：075-351-2228／FAX：075-315-2310
詳しくはFacebookページをご覧ください。https://www.facebook.com/nipponshinsei

日本真生塾　塾長　**岡本幸治**

### 「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は
毎月一回の発行です。
毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい
**年間購読料　1200円**
**郵便振替口座 01000-4-62360**
**口座名：みんなで政治を考える会**

── お問い合わせ先 ──
二ノ湯さとし事務所
電話　075-315-2228

**ホームページを開設いたしました**
**http://www.ninoyusatoshi.com**

### 「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

**新政経懇話会　年会費　1口1万円**

入会申込・お問い合わせ先
**二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228**